様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ５ 月 ３０ 日現在

機関番号：３２６８７
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2013～2017
課題番号：２５３８０７８５

研究課題名（和文）医療ソーシャルワーカーの業務継続中断を規定する個人と環境との相互作用に関する研究

研究課題名（英文）A Study on Mutual Interactions between Individual and Environment That Cause Medical Social Workers to Leave Job

研究代表者
保正　友子（TOMOKO, HOSHO）

立正大学・社会福祉学部・教授

研究者番号：８０２９９８５９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、医療ソーシャルワーカー(以下、MSW)が離職する際の背景にある、個人的要因と環境的要因とそれらの相互作用について、量的・質的調査に基づき解明することである。
量的調査については、2015年に２県のMSW協会会員のうち、現在MSWとして勤務している会員701人への郵送による紙面調査を行った。その結果より、MSW業務の継続意向に影響を及ぼす要因、離職意向に影響を及ぼす要因、離職を思いとどまる要因が明らかになった。質的調査については、すでにMSW業務を離職した７人へのインタビュー調査を実施した。その結果をＫＪ法で統合したところ、6つの島が生成でき重層的な離職要因が明らかになった。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to reveal individual factors, environmental factors and interactions between them that explain the separation from the service of medical social workers (hereinafter MSW) based on quantitative and qualitative surveys.
Regarding the quantitative survey, in 2015, a questionnaire survey was conducted by mail with 701 members of MSW associations in two prefectures who were working as MSW at that time. Consequently, factors that influence their intention to continue their services as MSW, those that influence their intention to leave the job and those that discourage them from leaving the job were identified. With regard to the qualitative survey, an interview survey was implemented with seven MSW who had already left their job. The integration of its results with the KJ method led to the generation of six groups, showing multi-layered factors that caused MSW to leave their job.

研究分野：社会福祉

キーワード：医療ソーシャルワーカー　離職　個人的要因　環境的要因　業務継続意向　離職意向　離職を思いとどまる要因

１．研究開始当初の背景

研究代表者はこれまで、医療ソーシャルワーカー（以下、ＭＳＷ)の実践能力変容過程と変容促進契機に関する実証研究に取り組んできた(保正 2011a,2011b,2012,2013)。そこでは、実践に自信が持てなかった新人期から、何度か限界に直面しつつも実践能力を習得し、自信を持って実践できるベテランの姿が見られた。しかしながら、あくまでもＭＳＷ業務を継続してきたベテラン対象の研究であり、新人期やそれ以降にＭＳＷ業務を離職したケースの詳細は明らかにできていない。

日本における先行研究を調べたところ、ＭＳＷの直面する困難に関する研究は進んでいるものの、おそらく調査協力者へのアクセス困難が障壁となり、バーンアウトや退職に関する研究の数は少なく、理由の如何を問わず、離職に関する経緯の詳細は十分に明らかにされていない。

一方、外国では Pockett(2003)が 19 人の病院勤務のソーシャルワーカーを対象にして、病院業務に留まるか否かは「環境への耐性」と「自己実現の度合い」により左右され、それぞれの組み合わせで 4 象限に分かれることを明らかにしている。また、保正の研究では、所属組織のあり方やサポート体制の違いにより、新人期でも自信を持って実践に取り組めるかどうかが異なるという示唆が得られた。そのため、個人の特性に加えて、個人を取り巻く環境がどのようなものか、という個人と環境との相互作用により、業務継続の有無が規定されると考えている。

そこで、Pockett と保正の知見を手掛かりにデータを分析することで、ＭＳＷの離職の詳細を明らかにし、それに応じた支援策が検討できると考えた。そのためには、すでに離職したＭＳＷへの離職理由の面接調査と、現職のＭＳＷがどのような状況下で離職を考え、どのようにしてそれを克服したのかに関する紙面調査の実施による、複合的・連続的データ収集・分析が不可欠と考えた。

２．研究の目的

本研究では、離職した元ＭＳＷへの面接調査と、現職に就いているＭＳＷへの紙面による郵送調査に基づき、ＭＳＷの離職の経緯とその要因を探ることを目的としている。この離職には、事務長への転身等の昇格に伴う職種変更や進学・結婚等の「積極的理由」と、何らかの業務困難に直面してＭＳＷ業務が継続できなくなる「消極的理由」が含まれる。「積極的理由」も「消極的理由」も合わせて、現時点では総体的なＭＳＷの離職状況が明らかにされていないため、その体系的な解明を意図している。そして、「消極的理由」に対する職業継続の支援策検討にむけた示唆を示すことがねらいである。

３．研究の方法

(1)先行研究の検討

平成 25 年度は、国内外のソーシャルワーカー、看護師、ケアワーカー等に対する離職に関する先行研究を収集・検討した。それらの知見に基づき、調査の枠組みを作成した。

(2)質的調査の実施

平成 25 年度より、すでにＭＳＷ業務を離職した７人を対象に、3 人の研究者が分担して、離職に至った経緯についての半構造化面接調査を実施した。それらのデータに基づき、ＫＪ法で離職の背景について統合し図解した。

(3)量的調査の実施

平成 27 年 2 月末から 3 月にかけて、現在ＭＳＷとして業務を継続している、首都圏と地方に位置づく 2 県のＭＳＷ協会に所属する会員 701 人に対して、郵送による紙面調査を行った。そして、回収された 394 人のデータに対して多様な統計処理を実施した。

４．研究成果

(1)ＫＪ法に基づくＭＳＷ業務の離職要因の解明

すでにＭＳＷ業務を離職した7人のインタビューデータに基づき、平成 27 年度から平成28年度にかけて、3人の研究者でＫＪ法を行い、データの統合を行った。その結果、「プロとしての未成熟」「現状からの脱却願望」「過重業務」「同僚への疲弊」「後輩の成長の妨げ」「相談相手の不在」という６つの島が生成された。個人的要因としては「プロとしての未成熟」「現状からの脱却願望」「後輩の成長の妨げ」が、環境的要因としては「過重業務」「同僚への疲弊」「相談相手の不在」が見い出せた。それらが折り重なって離職に結びついていたため、統合的なテーマは「負の地層」と名付けた。

(2) ＭＳＷ業務の継続意向に影響を及ぼす要因の解明

現職のＭＳＷの業務継続意向の関連要因を明らかにすることを目的として、多項ロジスティック回帰分析により342人の調査データを分析した。その結果、「現在のまま医療ソーシャルワーク業務を続けたい」との業務継続意向には、「ワーク・エンゲイジメント」が強く作用し、これに加えて「業務環境の良し悪し」も関連要因になることを析出できた。また、「医療ソーシャルワーク業務は続けたいが他の病院に移りたい」との意向には、個人的要因の「ワーク・エンゲイジメント」が強く作用し、これに環境的要因である「上司の配慮・誠実さ」の欠如が関連要因となることが析出された。

(3)離職意向に影響を及ぼす要因の解明

現在ＭＳＷ業務に従事している人達が、現在の職場において過去に業務継続中断を考えたことがあるのかどうかを測定し、考えたことがあるとすれば何が影響を及ぼしているのかを明らかにすることが目的に、314 人の調査データについて共分散構造分析を行った。その結果、離職意向に影響を及ぼす項目として 2 つの異なる系統が見いだされた。一つは「上司の配慮・誠実さ→部署環境の良し悪し→ワーク・エンゲイジメント」という上司を含む部署環境であり、もう一つは「多様で標準化困難な業務」という業務内容への認識である。また、当初は個人的要因と考えられた SOC３項目スケールは、今回の結果では離職意向に影響を及ぼさないことが明らかになった。

(4)離職を思いとどまる要因の解明

現職のＭＳＷが離職を思いとどまる背景には何かあるのかを分析し、離職に至ってしまうことがないよう防止策を明らかにすることを目的に、306 人の調査データについて共通する潜在的因子を導き出すために探索的因子分析を行った後、そこで析出された 6 因子について確証的因子分析を行った。その結果、離職を思いとどまる要因として、「資質向上志向」「責任感」「家庭との両立」「転職への不安」「他者からの引き止め」「現状容認」の６因子が析出された。それら6因子について各因子としての尺度と妥当性と因子間の関連性を検証するために、確証的因子分析を行った結果、因子から因子を構成する変数への影響指標は全て0.500以上かつ有意で、適合度指標はCFI＝0.931、GFI＝0.933、RMSEA＝0.059 で、統計学的な許容水準を概ね満たす結果となった。

(5)ＭＳＷの業務継続と業務継続中断傾向の2県での比較検討

今回、郵送による紙面調査を行った2県（首都圏に位置するＡ県ＭＳＷ協会と地方に位置するＢ県ＭＳＷ協会）の会員から得られたデータを比較し、県による業務継続中断傾向や特徴の違いの有無について検証した。その

結果、基本属性、業務継続中断意向、過去の業務継続中断経験、中断した理由のいずれにも2県ではほとんど差が見られなかった。このことから、ＭＳＷ業務の継続については、地域の違いによる影響よりも、所属する組織やＭＳＷ個人の要素の方が大きいのではないか、という結論に達した。

＜引用文献＞

保正友子(2011a)「医療ソーシャルワーカーの実践能力変容過程～新人期から中堅期に至る 3 段階～」『社会福祉学』52(1),96-108.

保正友子(2011b) 「医療ソーシャルワーカーの実践能力変容過程～ベテラン4人の事例に基づく新人期・中堅期・ベテラン期の実践能力の特徴～」『ソーシャルワーク学会誌』23,59-72.

保正友子(2012)「新人期からベテラン期に至る医療ソーシャルワーカーの実践能力変容過程～修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチによる17人のデータ分析に基づいて～」『ソーシャルワーク研究』38(2),38-46.

保正友子(2013)『医療ソーシャルワーカーの成長への道のり～実践能力変容過程に関する質的研究～』相川書房

Pockett,R. (2003) Staying in Hospital Social Work,Social Work in Health Care,36(3),1-24.

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　５　件）

①保正友子・杉山明伸・楢木博之「医療ソーシャルワーカーの業務継続中断を規定する個人と環境との相互作用に関する研究枠組み」『立正社会福祉研究』、15(1)、2013、27－33

②大口達也・杉山明伸・保正友子・楢木博之「医療ソーシャルワーカー業務の困難性への影響要因に関する研究～所属組織の体制や医療ソーシャルワーカー業務の特性との関連に着目して～」『立教大学コミュニティ福祉学部紀要』査読有、第18号、2016、1－25

③保正友子「医療ソーシャルワーカーの経験年数と実践能力の関連」『立正大学社会福祉学部紀要　人間の福祉』査読有、第 31 号、75－89

④杉山明伸・保正友子・楢木博之「医療ソーシャルワーカーの業務継続意向の関連要因に関する研究」『医療と福祉』査読有、第102号、51(1)、2017年、53－61

⑤杉山明伸・保正友子・楢木博之・大口達也「医療ソーシャルワーカーの Sence of Coherence とその関連要因の検討」『立教大学コミュニティ福祉学部紀要』査読有、第20号、2018、1－18

〔学会発表〕（計　４　件）

①2014年4月19日「業務継続中断要因の予備的調査」埼玉県医療社会事業協会学会（杉山明伸・保正友子・楢木博之）

②2014年5月24日「医療ソーシャルワーカーの業務継続中断を規定する個人と環境との相互作用に関する研究～7 人の事例に基づく考察～」第34回日本医療社会事業学会(保正友子・杉山明伸・楢木博之)

③2016年5月28日「医療ソーシャルワーカーの業務継続と業務継続中断～Ａ県協会とＢ県協会の比較から見えてきたこと～」第36回日本医療社会事業学会（楢木博之・保正友子・杉山明伸）

④2017 年 6 月 3 日「医療ソーシャルワーカーの業務継続中断の要因分析～ＫＪ法による抽出～」第 37 回日本医療社会事業学会（杉山明伸・保正友子・楢木博之）

６．研究組織

(1)研究代表者

保正　友子（HOSHO,Tomoko）

立正大学・社会福祉学部・教授

研究者番号：80299859

(2)研究分担者

杉山明伸（SUGIYAMA,Akinobu）

立教大学・コミュニティ福祉学部・准教授

研究者番号：40438106

楢木博之（NARAKI,Hiroyuki）

身延山大学・仏教学部・准教授

研究者番号：40552245